

佳作

未来の私へ

新潟県南魚沼市立大和中学校

3年 小杉 蓮依

未来の自分へ。今、自分がしていることに満足できていますか。中学3年生の私は、まだやりたいことがはっきりしていないけれど、自分が満足のいく将来にするために、心掛けていることがあります。

一つ目は、挑戦することです。私は、5歳の頃から、8年間ダンスを習っています。小学生のときは行かされていたというのが正しいくらいダンスに対して消極的でした。しかし、ダンスのオーディションで、自分よりより上手な人を見たときに、大きな衝撃を受けました。きらきらと輝く姿を見て、もっとうまくなりたい、私もあんなふうになりたいと思うようになりました。残念ながら、その年のオーディションは不合格でしたが、それがきっかけでダンスにのめり込むようになりました。趣味の範囲にとどまらず、やればやるほど意欲が湧くようになりました。そしてその翌年、1年前と同じオーディションを受け、合格することができました。そして、その同時期に引退間近の部活動も頑張ろうと思うようになりました。私は、入学当初、友達に誘われて剣道部に入部しました。始めは、ダンスと同じように、早く3年間で過ぎてほしいと思っていました。けれど、ダンスのオーディションをきっかけに、剣道にも向き合えるようになりました。そして、同級生のほとんどが部活を引退した後、私は昇段審査を受けることを決めました。夏休み中の稽古も決して楽なものではありませんでした。でも、一生懸命に取り組んだ結果、合格することができました。この二つの挑戦は、私の人生の中でも自分や自分の毎日を変える大きなチャンスだったと思います。

二つ目は「想像すること」です。前に母からイマジネーションが大切と言われたことがありました。言われたときは、どういう意味か分かりませんでした。けれど、中学3年生になって、今まで人ごとだと思っていた進路のことが急に現実味を帯びてきました。高校はどこにいくのかとか、高校を卒業したらどうするのかとか、大人になったらどこに住むのかとか、今まで考えたこともなかったことが頭の中に次々と出てきました。そこでようやく、これまでの自分はイマジネーションが足りていなかったんだなと思いました。将来、どんな自分になっていたいか考えられず、焦りを感じました。そこから、自分の気持ちに向き合うことが多くなりました。それと同時に母の言葉は合っていたんだと思いました。そして、考えれば考えるほど今やるべきことが分かるようになりました。

した。

三つ目は、人との関わりを多くもつことです。私は小さいとき、コンビニの店員さんとも目を合わせられないような重度の人見知りでした。けれど、中学に入り人と話す機会が増え、友達もたくさんできて人見知りを克服することができました。前は一人でいることが多く、何をするにも一人でしたが、気になったことはあまりありませんでした。しかし、克服してから常に友達がいる状況になり考え方も変わったような気がします。例えば、何かに挑戦してみたいと思ったとき、一人では不安になったり、あきらめそうになったりしていましたが、みんなでやれば心強くなり、前向きな気持ちになれるようになりました。私は、人見知りの自分と人見知りではない自分の両方を経験して、できることや自分の気持ちが全く違うこと、自分も変われることを知りました。

この三つをすることは、楽なことでも、近道でもないけれど、いろいろな経験をしてきて自分にとって満足する毎日にするために大切なものだと思います。私は挑戦することや、やりたいことを見つけること、想像すること今の自分に足りないところを探すこと、人との関わりを持つことは、一人ではできないことをできるようにすることだと思います。

私が変われたこれらのことを、人生のふとした瞬間に立ち止まり、思い返したいと思います。私の力で、成長してきたということを自信に、10年後、20年後の自分が、もっともっと成長し、なりたい自分、満足のいく自分になれていることを願いながら。